

中央介護支援センター

症 例 概 要 利用者氏名：50代 男性

利用期間 ：平成 27年8月 ～ 介入中

経 過：平成24年10月、アテローム血栓性脳梗塞発症。同年11月気管切開、胃ろう造設。石巻健育会病院にリハビリの為転院し平成27年8月自宅退院。退院時より、ひまわり訪問看護ステーション、ひまわり在宅ケアステーション、ひまわりデイサービス、石巻健育会病院、中央介護支援センター、福祉用具事業所がチームとなって支援開始。主介護者は、母。妻は日中仕事をしており、帰宅後から翌朝まで介護する。3か月自宅で過ごし、3か月石巻健育会病院レスパイト入院という生活リズムを繰り返している。

内 容

設計会社に勤め、自宅を自分で設計し建築中の平成24年10月 病に倒れる。脳幹梗塞にて救急搬送、四肢麻痺、開閉眼の従命が入るのみであった。平成24年11月 気管切開、胃ろう造設し吸引が必要な状況。その後リハビリ実施し右上肢は動きが出てきたが、三肢は完全麻痺。

発病後は自分の思いが伝わらず、思い通りにならないと怒ってテーブルを強く叩きつけたり、感情のコントロールが付かないことも見られた。

趣味はゲームや映画鑑賞、カラオケだった。脳幹梗塞発症後、右上肢でタブレットを操作しゲームや映画鑑賞していた。令和5年5月 AIによる静止画、動画作成にはまり、作品を作って自身のインスタグラムに投稿していた。

令和6年10月 ひまわりスタッフより、作品を展示会に出展すること提案。デイサービス利用時に作品作りに没頭し、利用時間中に作品を仕上げてしまうまでに。市民センターの文化祭に出展したところ反響が大きく、地域の催し物に出展の申入れあり。その直後に、3ヶ月のレスパイト入院。入院中、デイサービススタッフとメールでのやり取りを重ね、出展に向けて作品作りし退院するまでに作品が数多く仕上がった。当日、ひまわりスタッフのサポートで会場に出向き、そこで子供たちにAIでの作品作りのデモンストレーションをした。子供たちの要望に応え、子供が好きそうなキーワードを取り入れ作品を作ってみせると、子供たちは歓声に沸いた。ご本人も、柔らかな笑顔でその歓声に答えていた。訪問看護師、ヘルパー、ケアマネジャー訪問時は作品や展示の話題で盛り上がる。時に、最新の作品を見せていただくこともある。作品のクオリティが高く、商標登録の話も出たがご本人は趣味の範囲で作品作りしていきたいと。ご家族も同じ意見であった。

突然の発病で、しばらく現状を受け入れられずイラつきもあらわにしていた方だったが、キラキラ輝く笑顔

で好きなことに没頭し、ひまわりグループのスタッフとの交流を楽しんでいた。

石巻ひまわりNs：状態観察、吸引、排便コントロール。療養上のアドバイス。

石巻ひまわりOT：関節可動域訓練。四肢ストレッチ、リラクゼーション。座位保持訓練。

ひまわり在宅ケアステーション：排泄介助、外出の身支度介助。吸引。

ひまわりデイサービス：入浴介助。活動の場の提供。作品出展時のサポート。

石巻健育会病院：3か月間のレスパイト入院。

中央介護支援センター：作品出展時のサービス調整。連絡。

全サービス共通：コミュニケーション。